

国語 第5学年 文章に説得力をもたせるには 検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。強い言い切りや情報の量だけで説得力を測らない。B(1)イの学習として、主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)イに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4: つまづく児童にはどんな支援をするか。

返し: 根拠がないのに必ずと断定する、事例を多く入れて中心が曖昧になる。これに対して、教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。〔知識及び技能〕(1)カとB(1)イを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)イに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)イの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し: 根拠がないのに必ずと断定する、事例を多く入れて中心が曖昧になる。教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。

指摘 10: 振り返りを感想だけにしないためには。

返し: 「この事例は、どの理由を確かめるために必要ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

